

れた書籍は全てと言っていいほど読みつくした。スクランスキー、ブランソン、クルティエ、マケボイ、マルムス、クック、ハリントン、キャロ、彼らの書籍なしにプレイヤーとしての今日の私は存在しないだろう。彼らには返しきれないほどの借りがあり、とても感謝している。

ハービー・ペニックという歴史的にみても恐らく世界でも偉大なゴルフコーチが著した『ハービー・ペニックのリトルレッドブック』という素晴らしい書籍がある。その本で彼は、ゴルフというゲームに関して、彼が考えたことや思ったことを書き記している。ただし彼は一度として、絶対このやり方でなくてはならないとは言っていない。私も難しいゲームを教える方法として、ペニック氏にならうことにしよう。

どうぞあなたの時間を、この本に費やしてほしい。どれだけ徹底的に読みこなしたとしても、その意味するところがひらめきとなって理解されるまでには、さまざまな相手と何千ものハンドをプレイしなくてはならないはずだ。

時間をかけていい。あなたのバンクロール（資金）は、一日にして作られることはない。ゆっくりと成長していけばいい。後退するときもあるだろうし、バッドビート（ひどい負け方）を食らうことだってある。しかしあなたは、上達することで終わりなき喜びを味わうだろう。



ポーカーは、とても手強いゲームである。才能あふれたプロであり、ワールドポーカーツアーのホストであるマイク・セクストンの口癖に「ノーリミットテキサスホールデムを覚えるのは一分でできるが、極めるには一生かかる」という言葉がある。

勝つためには数多くの方法がある。だが、どんなスタイルでプレイしようとも、ゲームは「ポーカーの真理」として広く認められたいくつかの原理の上に成り立つ。まずは本章で、何年もかけて私が学び、発見し、教えられた真理のいくつかを紹介していく。

◆全ては決断にかかっている

ポーカーで勝つということは、お金を勝ち取ることでも、

相手の手を読むことでも、偉大なブラッファーになることでもない。もちろん、いかに多くのポットを勝ち取るかということでもない。ポーカーで勝つということは「正しい決断を下す」ということである。プレイする全てのハンドで、重要な決断と直面する。

- ・このハンドをプレイすべきか？
- ・どのくらいレイズすべきか？
- ・自分がベストハンドなのか？
- ・相手をフォールドさせられるか？

私が相手よりも、より多くの適切な決断ができたなら、私は勝つだろう。最も多くのポットを獲得することはできないかもしれない。しかし、勝てる。それも着実に。

◆結果を導く

テーブルに座っている間、全てのアクションまたはノンアクションには結果がつきまとう。私の目指すところは、自分のアクションは自分の思いどおりにする一方で、相手のアクションをも私の思いどおりにコントロールすることだ。全てのチェック、ベット、レイズ、もしくはフォールドといった判断において、自分のミスをもっと最小限にし、相手のミスをもっと最大限に引き出そうと努めている。

◆ベストハンドでポットにチップを入れる

どんなに頑張っても、参加した後にどのカードが出るかはコントロールできない。私にできることは、ベストハンドを持っているときに金をポットに入れることだ。バッドビートや相手が運良くドローをヒットさせて勝ってしまうのは、ゲームにおいて避けられないことだ。

もし下手なプレイヤー達が、時に幸運に恵まれて勝つということがなければ、ポーカーをする価値はなくなってしまうだろう。もし、ベストハンドのときにポットにチップを入れていたのであれば、負けてしまったことをくよくよ悩んでも、何もいいことはないのだ。

◆基本原理

デイビッド・スクランスキーは、著書『ザ・セオリー・オブ・ポーカー』でこう述べている。

「もし、あなたが相手のハンドを全て見る事ができたとして、その場合にあなたがするプレイと違うプレイを行うたびに、相手が得るであろう。そして、もしあなたが相手のハンドを全て見る事ができたとして、その場合にあなたがするプレイと同じプレイを行うごとに、相手が失うであろう。

逆に、もし相手があなたのハンドを全て見る事ができたとして、その場合に相手がするプレイと違うプレイを行うた

びに、あなたは得るであろう。そしてもし相手があなたのハンドを全て見ることができたとして、その場合に相手をするプレイと同じプレイを行うたびに、あなたは失うであろう」

私は何らかの方法で相手の手札を知ることができたとしたら、全てのベッティングラウンドで、アクションが正しいか間違っているかを定めることができる。私がベストハンドのときはベットかレイズすべきで、手で負けているときはチェックかフォールドをする。そしてオッズに合うときや、インプライドオッズ（これから先に取れるであろうチップも勘定に入れたオッズ）があった場合はコールするべきだろう。

ベストハンドのときは相手からチップを最大限に引き出し、手で負けているときは自分のチップが出て行くのを最小限にとどめる。ポーカーの基本原理はシンプルである。しかしポーカーはシンプルなゲームではない。相手のカードが分かるなんてことはめったにない。偉大なプレイヤーになるためには、ゲーム内で基本原則と多くの心理的な要素を組み合わせなければならないのである。

◆自分のアクションの番が来た——よく考えて！

自分の番が来たら、私は頭の中で毎回簡単な自問を行う。

- ・相手はどのようにプレイしているか？ パッシブか？

アクティブか？ あれこれ試してきているか？

- ・相手はどんなハンドを持っているのか？
- ・相手は私のハンドを何と読んでいるのか？
- ・ポジションは有利か不利か？

そして、これらの答えが見つかった後、最も重要な問題について考える。

○ベット（もしくはレイズ）すべきか？

- ・もし、自分のハンドがベストだと思うならば、答えはイエス。ベットかレイズをする。
- ・もし、このベットもしくはそれ以降のベットで、弱々しい相手を降ろせると思えば、答えはイエス。ベットかレイズをする。
- ・もし、自分のハンドが期待値の高いドローハンドで、なおかつ相手が降りてくれる可能性（フォールディングエクイティ）もそこそこあると思えば、答えはイエス。ベットかレイズをする。

○チェック（もしくはフォールド）すべきか？

- ・もし、自分のハンドが悪いと思うなら、答えはイエス。チェックかフォールドをする。
- ・もし、相手が強いと思うなら、答えはイエス。チェッ

クかフォールドをする。

- ・もし、期待値の低いドロウハンドなら、答えはイエス。
チェックかフォールドをする。

注意深く分析した後、レイズやフォールドをすべきでない
と判断したならば、コール（もしくはチェック）が正しいと
確信できる。

これを繰り返すうちに気づいたことは、一見分かりやすく、
明らかな状況のときにも、これら一連の自問を行うことで、
他のプレイヤーなら見落とすかもしれないチャンスを、しば
しば見逃さずに済んでいるということだ。

私は、チェックかフォールドを考える前に、ベットかレイ
ズを考えることで、プレイがアグレッシブになるようにして
いる。アグレッシブなプレイこそが、勝てるポーカースタイ
ルである。

◆最高である必要はない

テーブルのなかで、最高のプレイヤーである必要はない。
勝つためにすべきことは、そのテーブルの何人かよりも上手
くプレイすることだ。

あるテーブルで受け渡しされるお金のほとんどは、2～3
人の下手なプレイヤーからもたらされる。私は、自分よりも
弱いプレイヤーからお金を稼ぎ、強いプレイヤーから自分の

お金を守り抜くために全力を尽くしている。

2003年3月、ワールドポーカーツアーの放送が始まった直
後のことだが、大金を持った旅行客の大群がノーリミットホ
ールデムなるものをプレイしてみたいと、ウズウズしながら
ラスベガスに集まってきたことがあった。

そんなある晩、私はベラージオでブラインド\$10/\$20のノ
ーリミットテーブルのそばを通りがかった。するとそのテ
ーブルにはアントニオ・エスファンディアリ、ガス・ハンセ
ン、フィル・ラーク、レイフ・ファースト、ほかにも3人の
名のありそうなプレイヤーが座っていた。

私は彼らがなぜ、ゲームに参加しているのか分からなかつ
た。なぜなら、プロがほかのプロを相手にすることに大きな
アドバンテージアドバンテージ優位性があるとは思えなかったからだ。私自身もこの面々
の中では自分に勝ち目があるとも思えなかった。

その後、私は狙い目を見つけた。“ハリー”はテキサスの
オースティンから来た本物の天使だった。彼は\$10,000の札束
をいくつも持っていて、ほぼ毎回と思えるほどの割合で、ひ
と束ずつベットしていた。

席がひとつ空いていたので、私はそこに座ることにした。

◆よくあるミス

誰でもミスをするが、下手なプレイヤーは何度も同じよう
なミスをする。彼らのミスにつけこめるプレイヤーが勝利す

なのだ。下手なプレイヤーに共通するいくつかのミスと、それにつけこむ方法を挙げてみよう。

- ・ブラフする頻度が少ない。
彼らがベットやレイズしたら、良い手を持っているというのが明らかである。そして、彼らがチェックしたら、私はポットを奪うためにベットする。
- ・トップペアを過信する。
ホールデムで勝つハンドの平均は、ツーペアである。だが、多くのプレイヤーが、トップペアでとてつもないリスクを負いたがる。トップペアを過信しているプレイヤーを負かすハンドがあるときは、オーバーベット（通常より大きなベット）をし、彼らをミスへと誘い込む。
私はそういうプレイヤーに対して、スモールポケットペアであってもあえてプレイする。もしフロップでセット（手札2枚とボードの1枚で作るスリーカード）になったときに、大きなポットを取れるであろうからだ（213頁「ポットオッズとインプライドオッズ」参照）。
- ・ポット額に対してベット額が小さい。
特にノーリミットホールデムでは、ドローを引きにく

る相手に代償を払わせるための大きなベットがとても重要だ（213頁「ポットオッズとインプライドオッズ」参照）。

私がドローで相手がポットに対して小さく打った場合、ジャストコールすることで彼らのミスを利用する。また私が勝っていると思えばレイズする。

- ・コールしすぎる。
私は“コーリングステーション（なんでもかんでもコールするプレイヤー）”に対しては、めったにブラフをしない。ハンドで勝っているときにベットする。
- ・プレッシャーからタイトになる。
下手なプレイヤーのほとんどが、トーナメントの中盤やバブル（賞金がでるひとつ手前の順位。例えば、16位から賞金がでるトーナメントの17位）の直前では堅くなりすぎる。彼らはタイトにビッグハンドを待っているのだから、私はより柔軟にプレイして、ブラインドとアンティをいただきに行く。
- ・テル（癖）の多い、分かりやすいプレイヤー。
私はプレイに参加してないときも、常にこの種のプレイヤーを観察している（第6章参照）。

"相手によって戦略を変え、それによって勝利を得ることが出来る者は、天性の指導者と呼ばれるだろう"

——『孫子の兵法』より

◆相手を観察する

自分がハンドに参加していなくても、常に相手を観察しておくのは、勝利のチャンスを増やす最高の方法のひとつだ。

- ・テル（癖）を見つける。
- ・ベッティングパターンを見つける。
- ・相手のハンドを推測する。
- ・もし相手がショーダウンしたら、そのカードやポジション、プリフロップやそれ以降にそのハンドでどうプレイしたのかを覚えておく。
- ・相手の心理状態を考える。
- ・彼らにアクションを起こさせる動機となるもの考える。

相手をより詳しく観察すれば、より多くの情報を持って相手と戦うことができるのだ。私がいままで見たなかで一番参考になった事例は、2001年のワールドシリーズのファイナルテーブルでの出来事である。

プレイヤーは残り5人となり、フィル・ヘルミュース・ジ

ュニアとカルロス・モーテンセンが、結果的にそのトーナメントで最も重要となるハンドでぶつかりあった。フロップはQ 9 4で2枚のスペード。カルロスはフィルが\$60,000ベットした後、\$200,000にチェックレイズしたが、フィルはすぐさま約\$400,000のオールインをした。

Q Jを持っていたカルロスはフィルより多くのチップを持っていたが、彼がフロップで大きな手を当てたのではないかと明らかに恐れていた。カルロスが小声でぶつぶつ言いながら思案をめぐらせているとき、フィルはそれを「コール」と聞き間違えて、ほんの一瞬だがQ T（TはTEN=10の略）である自分のハンドを見せてしまったのだ。

彼の観察を怠っていなかったカルロスは、もちろんそれを見逃さず即座にコールし、ターン、リバーで何も起こらずフィル・ヘルミュース・ジュニアを飛ばし、彼をこのトーナメントの5位にとどまらせた。観衆は彼を称えるべく歓声を上げた。フィルの妻と両親を除いて……。

◆アグレッシブであることの重要性

チェックかコールをして勝てるのは、ショーダウンの時点で相手より良いハンドを持っているときだけである。ベットかレイズをすれば2通りの勝ち方がある。相手がフォールドするとき、ショーダウンのとき相手より良いハンドを持っているときである。

私がテーブルで最も恐れるのは、常にベットとレイズをしてくるプレイヤーである。チェックばかりするプレイヤーやコールばかりするプレイヤーは、大抵は長くもちこたえられない。

◆ポジションこそ重要

ノーリミットホールデムで良いポジション（自分のアクションが一番最後）にいることは、とても重要である。それは以下の理由による。

- ・プレイヤー全員の動きを確認してから、自分の動きを判断できる。
- ・ポジションが最後なので、ブラフしやすい。
- ・フロップで何かが当たる可能性はそう高くないということを、上手く利用することができる。テキサスホールデムではペアでないカード（AK、KQ、64など）がフロップでペアかそれ以上になるのは約35%である。相手のハンドがフロップと合わない65%の場合において、自分のハンドの強さに関係なく、ポジションを利用して優位に立つことができる。
- ・ポジションが良ければ、良い手ではあるがベストハンドではない手を持った相手から、できるかぎりのお金を引き出すことが簡単である。

ざっと見積もって、私は参加しているゲームの75~80%は優位なポジションでプレイしている。強い相手に対しては、不利なポジションで参加することはほとんどない。

◆お金の流れは時計回り

良いポジション（基本的には相手から見て左側の席）でプレイすることの数々の利点によって、ポーカーテーブルではお金は時計回りに移動する傾向がある。ブラインドからだんだんと離れ、順番が最後のプレイヤーに向かって流れていくのだ。

（あるプレイヤーの左隣に座れば〈そのプレイヤーがボタンのときを除き〉常に有利なポジションでプレイすることができる。フィッシュ〈日本でいうカモ〉を見つけたら、できるだけその左側に座ることで相手のミスを最大限に生かすことができるのだ）

